

保育園で発生した腸管出血性大腸菌 O145 の集団発生事例

保健科学課 麻生嶋 七美・本田 己喜子・藤丸 淑美
尾崎 延芳・佐藤 正雄

衛生微生物協議会第 34 回研究会

2012年9月福岡市内の保育園において腸管出血性大腸菌 O145:H-(*stx2*)による集団感染事例が発生した。市内医療機関より1歳男児および1歳女児の腸管出血性大腸菌 O145 感染症発生届が管轄保健所へ提出され、保健所がこれら2名の家族の聞き取り調査および検便を実施したところ、1歳女児の家族3名から腸管出血性大腸菌 O145 が検出された。また、これら2名の1歳児は、同じ保育園の同じクラスに通園していたため、保健所は、当該保育園の聞き取り調査を行い、園児および職員の検便を実施した。その結果、新たに4名の園児とその家族5名から腸管出血性大腸菌 O145 が検出された。最終的には計200名（延べ388検体、2回の検便を実施）の検体が当所に搬入され、10月9日に本事例は終息した。本事例で分離された O145 14株は、いずれも同一の生化学性状を示し、PFGEにおいても同一パターンを示した。したがって、これらの解析結果から、本事例は同一の感染源であることが推察された。